

2000年アジア商業視察報告

副会長 鐘井 輝

去る6月24日(土)～7月1日(土)の8日間小濱先生、土屋先生、井田先生、滝頭先生、小野先生それから関西からは北村先生と私が参加して香港・深圳・シンガポール・台北へのアジア商業視察に行ってきました。

今年の夏は日本でもことのほか厳しいものがありました。が、一足早く今夏の暑さの洗礼を受けた視察となりました。

わが国は第二次世界大戦後、急速な経済回復でアジア諸国の兄貴分を自負してきました。しかし現在においてもバブル崩壊後の景気回復感はまだ感じられず、商業におきましても一部の企業や店舗を除いて厳しい状況が続いたままです。ここへ来て自信を失いかけてきているのではないかと感じているのは私一人ではないと思います。

アジア通貨危機からいち早く立ち直りつつある地域から謙虚に学ぶ姿勢も必要なようです。そこで各地域の状況やトピックスをレポートします。

日本・香港・深圳・四川の物価比較

日本の物価 = 100

	物価	賃金	家賃	ガソリン	煙草	自動車
日本	100	100	100	100	100	100
香港	50	50	100	150	200	200
深圳	10	12	14	50	65	300
四川		1~2				

1. 香港

人口約670万人、1H\$ (ホンコンドル) = 14円。日本より蒸し暑く湿気が多い都市であり、平均気温は30前後です。

現在若者の職業への関心ある職業は次のものです。

- 1位がIT関連
- 2位は製薬販売(漢方)

香港中心部の分譲マンションの価格は40～50㎡(2LDK)で300万H\$(4,200万円)。97年の返還前だったらその2倍していました。

自動車の価格は例えば2800cc三菱のパジェロクラスで700万円もしています。

「香港日本人商工会議所」を訪問し、事務局長の松井弘志氏より、香港経済の概要について説明を受けました。以下

内容を要約します。

【通貨危機の影響】

98年の香港経済は1961年に統計をとり始めて以来、初のマイナス成長となった。金利の上昇、資産価格の不安定性、民間消費支出の減少、実質賃金の伸び悩みなど消費不況をもたらした。

【香港経済の特色】

米ドルリンク(米ドルペッグ制)

米ドルペッグ制はH\$発券額相当のUS\$を持つため、US\$に引っ張られてH\$も強くなり、その結果物価高(人件費・家賃・その他物価)につながった。このUS\$ペッグ制をいつ外すのか、そのタイミングをどう捉えるかが、今後の香港経済を決めるポイントとなる。

貿易・金融

香港は東アジアにおける貿易・金融の中心地であるが、98年度は地場輸出、再輸出、輸入ともに大幅に減少、特に日本からの輸入価格が円安によって下落したにもかかわらず輸入数量も大幅な減少になってしまった。

観光収入

返還前の年96年度は日本からの観光客は260万人であった。それまでは大体、約130万人だったので、倍の観光客が来たことになる。その後は急激に減少し98年度は95万人になっている。

産業構造のサービス化

香港では製造業のほとんどを深圳に移してしまい、全体の産業の8%ぐらいしか残ってない。消費財のほとんどを輸入に依存している。香港はモノやカネの中継地点としてマージンを得ることで現在の地位を築いているが、運輸、貿易関連、観光、金融など対外サービス業の特徴は香港自身ではコントロールしがたい。

中国との経済関係の緊密化

香港の再輸出は、輸出総額の86%を占めているが、今後重要なことは以下の点である。

- 1) 中国原産品を第三国に仲介
- 2) 被投資国としての中国で稼働する工場に対し、投資国側から資本財や中間財などを供給する際の中継点となる。

今後は深圳地区を巡って、中国政府とのより一層の緊密化をはかることが重要になる。

レッセフェールとその修正

98年に香港は過去最悪の経済不況を経験した。97年10月の株式市場の崩壊、不動産価格の低下(不動産価格は一

年間でほぼ半分に下落)、結果として消費の大幅減少。
98年8月以降のヘッジファンド投機の活発化に対して香港金融管理局が買い支え介入を実施、香港ドルの安定を維持することが出来た。

情報通信サービスについて

ドットコム企業が急に増えている。B to C はまだ現実には進んでいないが、考え方はかなり進んでいる。

今まで香港経済を支えリードしてきた巨大不動産グループ(5~6社)が、IT産業に進出してきており、今後は世界の通信インフラをどれだけ押さえるかという時代になるう。

香港の法人税は16%なので、利益のほとんど全額を再投資に振り向けることが出来る。税金が安いということが香港経済の強みでもある。

2. 深圳

深圳は中国ある5カ所の経済特別区のなかの一つの地域です。深圳に入る香港の車は香港のナンバープレートの他に、深圳のナンバープレートが必要で、2つのナンバープレートを前後に付けています。香港~深圳の距離は約30kmあります。

香港の人は、土曜日の午後から深圳に行って、買い物・食事を楽しみ翌日帰ってくる人が多いので、土日は道路も税関も込んでいます。

深圳の物価は香港の約8分の1。マンションは60万H\$(約900万円)で買え、200㎡の高級マンションでも150万H\$(約2,100万円)で買えます。香港で働いて深圳に往む人も増えつつある。バス通勤と税関での時間待ちなど、通勤時間には要するが貯金が出来るといことです。

深圳の歴史がスタートしたのは約20年です。20年前は何もないところで畑ばかりでしたが、鄧小平の一言で近代的な街づくりが行われ経済特別区としての政策によって発展してきました。外国企業を積極的に誘致して、優遇政策をとってきました。現在深圳で誘致した企業の多いベスト3地域は次の順番です。

香港
台湾
日本

オフィスビル、マンションが整備され、工場団地はIT産業における世界の中心的生産拠点として成長発展してきたのです。この経済特別区は、経済活動だけが自由で政治体制は中国本土と一緒にという仕組みになっています。

深圳地区で一番高いビルは69階建て、近代都市を形成しつつあります。一方医療関係では患者は病院への入院時に日本円で約10万円を預けておかないと診察してもらえない、といった個人として対応していかなければならない点も多くあります。

また深圳には、工場団地がたくさんあり、そこで働く工員の数も多く、これら工員の平均給与は、約 10,000 円です。残業を含めて 1 日 12 時間労働を行い、約 15,000 円の所得を得ているのです。一般サラリーマンの給与は月額約 3 万円、平均物価は日本の約 10 分の 1 です。

【自由市場】

深圳では人民元が使えず、香港ドルのみの通用するショッピングセンターもありますが、深圳庶民の台所を賄う「自由市場」を紹介します。

魚、肉、野菜、生物(鳥、蛇)、雑貨、果物など日常品が販売されています。価格は少し高めですが、スーパーよりは新鮮なものが販売されています。ちなみにに生きた鶏類は 15 元(約 300 円)です。

1 階には魚、肉、野菜の多くの種類が豊富に品揃えされています。肉類は豚足、内臓までむき出し、肉類はブロック状で、裸のまま売られています。

2 階では鞆や雑貨、洋服などが販売されています。ちょうど、隣では全米最大のウォールマートストアズのスーパーセンターが建築中でした。

3. シンガポール

人口約 350 万人、1 シンガポール\$ = 62 円。四季はなく、日中の平均気温は 30 前後で、湿度の高い都市です。スコールは時々発生しますが、台風や地震の心配はありません。

中国系 76%、マレー系 14%、インド系 7% の多民族国家で宗教は自由です。

シンガポール空港(チャンギ空港)から市内までは車で約 30 分で着きます。

空港～市内への道路の南側にアンブレラーツリーが立ち並び、ブーゲンビリアの花が咲き誇っています。森林公園道路という雰囲気をかもしだしています。

道路の南側だけでなく街中にも緑が多く、これらの木は政府の財産で、一年に一日、木を植える日を設けており、全て政府が管理しています。ゴミのポイ捨ては、60,000 円の罰金で、2 回目以後は公園など町での掃除が加わります。

郊外のマンションは、7,000 万円～約 1 億円です。73 階建てのホテルが一番高い建物です。

自動車は全部輸入しており、その価格は高く 1600CC で約 700 万円、日本の約 4 倍です。それでも結婚しないで車を買う若者が多いということです。

給料は一般で約 9 万円、大卒で約 15 万円。

【マリーナスクエアの DFS ギャレリア】

店員は全員日本語ができます。世界の DFS 店舗の中でも最大級の面積を誇っています。

3 階にはグッチ、フェラガモ、エルメス、ブルガリ、コーチなどが専門ブティックを構えています。2 階はカジュ

アルウエア、化粧品など、1階は歩きながらシンガポールの文化に触れられるテーマパークのつくりをしています。市内 28 の主要ホテルを巡回する無料シャトルバスとチャンギ空港までのバスを運行しており、営業時間は 9:30-22:00 で年中無休です。

【サンテック・シティー・モール】

マリーナ・スクエア隣接するコンベンションセンターの一角にある巨大なショッピングセンターです。ブランド品、カジュアルウエア、時計、貴金属、小動物、お土産品など約 200 店舗が入っています。ワーナーブラザーズ・ショップなど子供用品売場や地下にはレストラン街があります。営業時間は 10:00-22:00 です。

【Bugis village】

かつてのシンガポールの雰囲気を残す露店と屋外のフードセンターがあり価格も安く、ちなみにシンガポール特有のプリントをした大人向けTシャツは一枚約 200 円でした。香港の油麻地にある女人街の縮小版ともいえます。細い路地に露店がぎっしり並んでいて、ぶつかり合いながら買い物客が歩いています。

【Bugis Junction】

ブギスピレッジからブギス・ストリートを含んで反対側にある大型デパート西友とファッション&フード専門店街です。パルコ、高級ホテルのインターコンチネンタルホテルによって構成されているショッピングセンターでもあります。

パルコ側はガラス張りの天井を持つショッピングストリート、地元の人気ブティック、レストラン、カフェ、ゲームセンターなど約 100 軒余りの専門店が入っています。仕事が終わってから地下鉄に乗って若者たちが集まる「若者街」になります。

【オーチャード・ロード】

このエリアは、広い歩道、行届いた清掃と街を汚さない慣習、緑たっぷりの街路樹など、観光客がゆっくりと買い物を楽しむ街です。毎朝 4 時 30 分頃から 5 時頃にかけて清掃しているとのこと。通りの名前は 19 世紀までは果樹園(オーチャード)があった場所ということから付けられました。

4. 台北

台湾の総面積は約 36,000 km²であり、日本の四国より大きく九州よりやや小さい領土となっています。

台湾の総人口は約 2,300 万人ですがそのうち約 300 万人が台北市集まっています。1台湾元 = 2.8円。年間の平均気温は 30 を越え、日本の真夏に近い平均気温の都市です。

預金金利は約 6% で現在上昇傾向にあるそうです。また携帯電話の普及率は世界でもトップクラスです。

台湾でのケーブルテレビ普及率は世界一で、現在 99 チャンネルあり、各家庭では月額約 2,000 円で視聴することができます。

最近台湾政府は行政改革の一環として、役所のサービス改善を成功させています。市民が役所サービスを受けるために出向いたときにはお茶のサービスを行うそうです。

台湾の農家は主に西側にあり、南部は 3 部作をしていましたが、若者たちの米離れが進み最近では 2 部作になってしまいました。農家の収入の不足分は補助金で賄われています。農作時間が減って補助金をもらえるので、北海道に雪を見にくるツアーが人気を呼んでいるそうです。

山脈の西側南北を結ぶ第一高速、第二高速道路は 4 車線、東西には 12 本の高速道路が来年 6 月には完成する予定です。西側と東側を走る高速道路を北部では来年から、南部では 2 ~ 3 年後からつくりますが、問題は 78.6 k m のトンネル工事が必要となることです。

台湾の自動車産業は好景気です。車検制度は日本と異なり、初回が 3 年、その後は 1 年に 1 回車検、6 年後からは半年車検、8 年後からは 3 ヶ月車検が義務づけられています。

貿易は出来るだけ自由化し、世界各国の自由な販売を歓迎しています。これからはイタリアデザインで購入時の価格が安い(メンテナンスにどれだけかかるかはまだ分からないが)韓国車が増えるだろうと予測されています。

台湾の 2 大都市である台北 ~ 高雄間 (345 k m) を 1 時間半 (最高時速 300 k m) で結ぶ台湾新幹線のプロジェクトについては、台湾高速鉄道 (台湾の有力民間企業が出資) が 35 年の BOT (建設・運営・移転) 方式で運営することになっています。



市内には駐車場が少ないので、バスを利用することを奨励しており、地下鉄に乗ってバスに乗り継いだ場合には、バス料金は 2 時間以内は無料になります。

車は殆どが左ハンドル、右側通行です。ガソリン価格は 1

リットル 70円と安く、自動車の価格は日本車、例えば日産のセフィーロ 3000cc で約 350 万円ですから日本国内とほぼ同じです。

台湾日産では一般社員の給料は 9 万円 (約 27 万円) ですが年間 17.5 ヶ月の賞与が支給されています。



【 中 華 民 國 全 國 商 業 總 會 訪 問 】

都彦豪駐曾顧問から台湾の現状について説明を受けました。内容の要約は以下の通りです。

台湾は島国で日本とよく似ており、活発さは日本と同じ、台湾の経済成長率は今のところ 7.9% で世界第一である。

台湾経済のほとんどは、中小企業に頼っているのでこれを重んじていかなければダメになってしまう。過去 50 年間中小企業は貢献してきたし、これからも変わらないだろう。中小企業も全世界の経済の状況に合わせて、自由化と透明化にに応じていく必要がある。透明化の問題は難しい。WTO (世界貿易機構) に加盟することになれば、ますます自由化への取組みが大切になってくる。

コンピュータ関係は日本の中小企業とタイアップして努力していくが、伝統的な体質の中小企業の存続が問題になっている。これからも、(靴、自転車などは)中国、ベトナムなどへ移転していくことになるだろう。

全國商業總會は各国の大使館と接触して、台湾中小企業が全世界に進出するチャンスをこれからも増やしていく。3 ヶ月に 1 回各国の商業代表や大使などと相談会、ミーティングを行っている。

全國商業總會は中華民國の商業法律に基づいた總會で、工業とは分かれている。

台湾の商業者のほとんどがメンバーになっており、135 万人の個人会員と 2,200 のグループメンバーで構成されている。全てが現地会員だが、法人の場合は外国資本が 49% 以下なら加盟できる。

全國商業總會の主な役割は、メンバー相互間の交流促進

とメンバーと政府との橋渡しである。

新政権（陳水扁總統）の考え方は、台湾は日本やヨーロッパと同じような組織を真似て努力して行こうという路線である。日本も東南アジアを重んじて交流することが大切だ。過去10年間李登輝總統の政策は「行きたいところでも、そんなに急ぐな」とした政策だった。中国に行くにも大きい投資はしなかったの、大企業は行けなかった。新政権ではその政策が良いのか、良くないのか検討中である。台湾企業にとって、中国は土地や人件費など、魅力もあり、大企業もこれから中国に投資していくところが増えるだろう。

【 COSTCO WHOLESALE 】

商品棚は4段積みのパレットラックで構成されています。現在台北で2店舗展開中です。提供単位の大きい商品もありますが、低価格での販売にその人気が集まっています。例えば米9kgが980円、クロスボールペン2本＋シャープペンシル2本で2800円、21型平面型テレビが38,000円などです。

コスコ・ホールセールの特徴として以下の点が挙げられます。

会員制による会費での運営。

倉庫型店舗による大量陳列と箱売り等による合理化。

店舗に倉庫の機能を持たせながらその機能を樁たすローコスト経営で日本では1999年4月23日に福岡県久山にすでにオープンしています。2000年12月には、幕張に店舗開業予定です。

現在のところコンビニエンスストアの業績は非常に好調の様です。原因の一つとして国民的人気のあるチャージータン（鶏の卵とお茶と醤油を煮る料理）のコンビニでの品揃えがあります。

以上2000年の夏に駆け足でしたがアジア商業視察を行いました。紙面の都合であまり多くのことを述べることができませんでしたが、全体を通して今後日本の商業が再スタートをきるためのヒントとなるキーワードを提示して本報告のまとめにしたいと思います。

【 これからの商業に必要な姿勢及び発想 】

ターゲットを変えた多様なアプローチ
効率よりも効果を求める
ハングリー精神
リスクテイク
バイタリティ

以上

「SPN 通信第 20 号」販売促進学会 2000 年 11 号執筆原稿